KEEPAD JAPAN

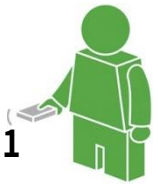
ベーシック・トレーニング

作成・アンケート実施・レポート作成まで

授業・プレゼンでスムーズにTurningPointを使うための基本操作を学ぶトレーニング！

2013月　5月改定版

キーパッド・ジャパン株式会社



KEEPAD JAPAN

TurningPoint とは？

授業やセミナーのプレゼンテーションの際、発表者が参加者（生徒や聴衆者）の意見や回答をリアルタイムで収集できるハード（レシーバーとレスポンス・カード）と専用ソフトを利用したシステム

TurningPoint

TurningPoint AnyWhere

RemotePoll

遠隔地を結んでの投票・集計も可能！

KEEPAD JAPAN

TurningPoint とは？

レスポンスカードで投票します。

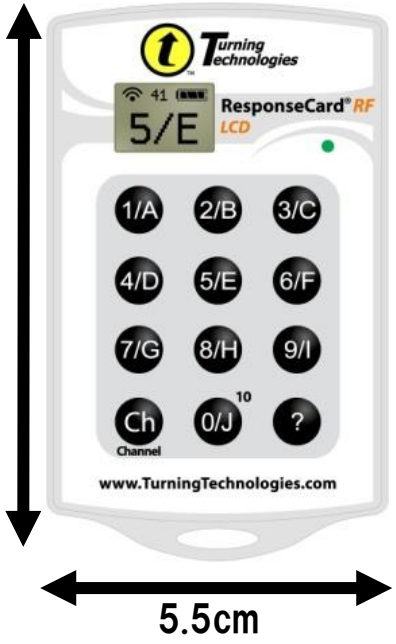
レシーバーが投票を受け付け、スライドショーでは投票結果が表示されます

質問や問題をスライドショーで表示します。

KEEPAD JAPAN

レスポンス・カード（RF）

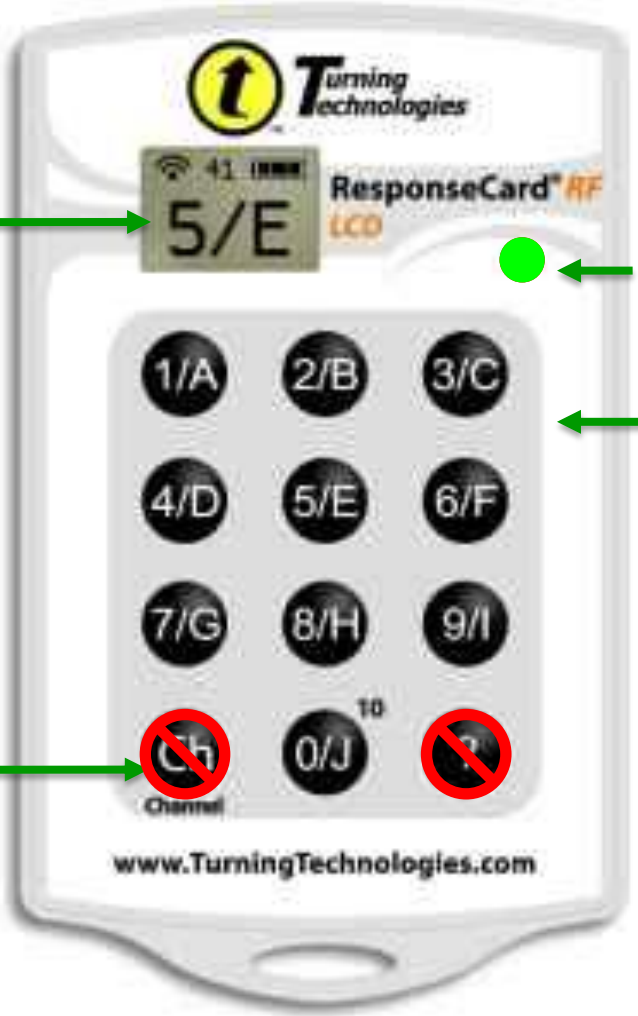
- 無線周波技術を利用
- 周波数のチャンネル数：82（デフォルト：41ch）
- 双方向のデータ送信確認： LED 緑点灯
- カード裏のバーコード下：6ケタのデバイスID
- 3.0V ボタン電池（CR2032）2つ使用
- 送信範囲：半径120m以上
- レシーバーに意識的に向ける必要なし



KEEPAD JAPAN

レスポンス・カード（RF）

液晶画面には回答した番号が表示されます。該当以外のボタンを押した場合は⊘マークが表示されます。



数字キーで答えを選択。ランプが緑に光れば、投票が無事受信。

集計中何度でも押しなおせます。

注意:
チャンネルを変える時以外は押させないで下さい。
（投票する時は使用しません。）

KEEPAD JAPAN

USB RF レシーバー

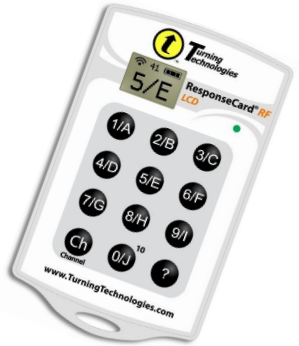
- 無線周波技術を利用
- 周波数のチャンネル数:82（デフォルト: 41ch）
- 最大 1000台のレスポンスカードまで受信可能
  （出荷時、購入された枚数にて登録済み）
- PCに接続の際は、Plug&Play（ドライバー不要）
- 1つのPCに複数台のレシーバー接続可能
  （異なるチャンネル設定必須）
- 送信範囲:
  - RFレシーバー: 60～70m
  - ロングレンジレシーバー: 120m
- Bus Power（USBポート経由）

RFレシーバー

ロングレンジ・
レシーバー

KEEPAD JAPAN

この3点でARSを実現！



レスポンスカード（クリッカー）

＋

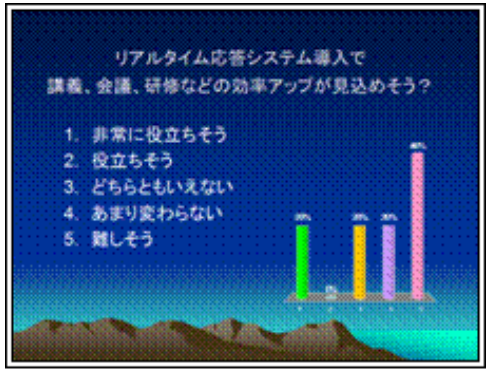
レシーバ

＋

TurningPoint2008

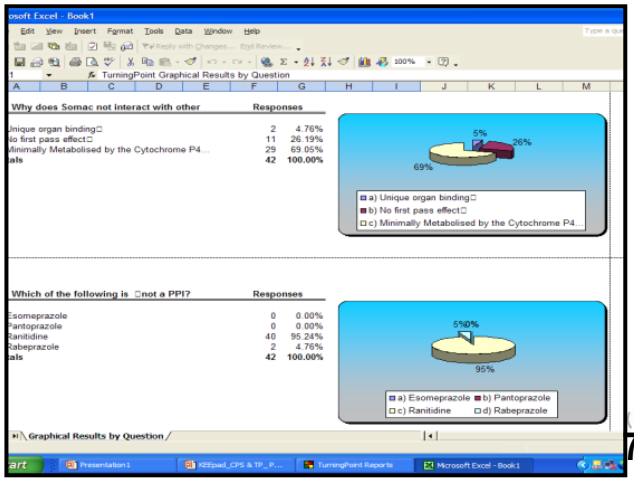
TurningPointソフトウェア

１．簡単にスライドを作成



２．意見の可視化！！
（結果をグラフ表示）

３．レポート簡単作成！！



KEEPAD JAPAN

TurningPointのインストール

【システム要件】

- **Microsoft Windows XP, Vista, 7**
- **Microsoft Office XP, 2003, 2007、2010**

- インテル/AMD600MHz　以上のプロセッサ（1GHz以上を推奨）
- 256MBのRAM
- 60MBのハードデスク空き容量（Microsoft.Net Framework2.0がインストールされていない場合は、さらに32MBが必要になります。）
- 解像度1024X768、32ビットカラー以上　（64ビット対応）
- 標準USB1.1/2.0ポート
- アドビ Flash Player (アニメーション2D/3Dグラフ)

インストールするソフトウエア

✓ TurningPoint4.3.2

✓ Office2007をご使用のお客様は、

2007Microsoft Office スイートService Pack 1 (office2007sp1-kb936982-fullfile-ja-jp.exe)

又は**Service Pack2**(office2007sp2-kb953195-fullfile-ja-jp.exe)

KEEPAD JAPAN

【Macシステム要件】

- **Mac OS X 10.4以上**
- **３Gクラス以上のプロセッサ**
- **256MBのRAM（512MBのRAMを推奨）**
- **10MBのハードデスク空き容量**
- **USB1.1/2.0ポートを標準**

- コンピュータに管理者モードでログインします。
- TurningPointAnywhere for Mac をインストールします。

✴http://www.keepad.com/jp/tp08-downloads.php(弊社サイト）
✴CDからインストールする場合「TPAMAC.dmg」 をクリック

KEEPAD JAPAN

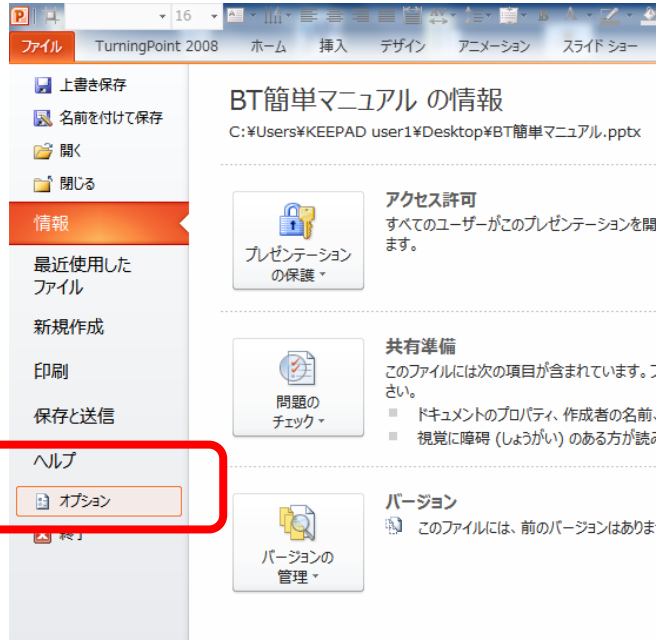
プレゼンテーションを始める前に

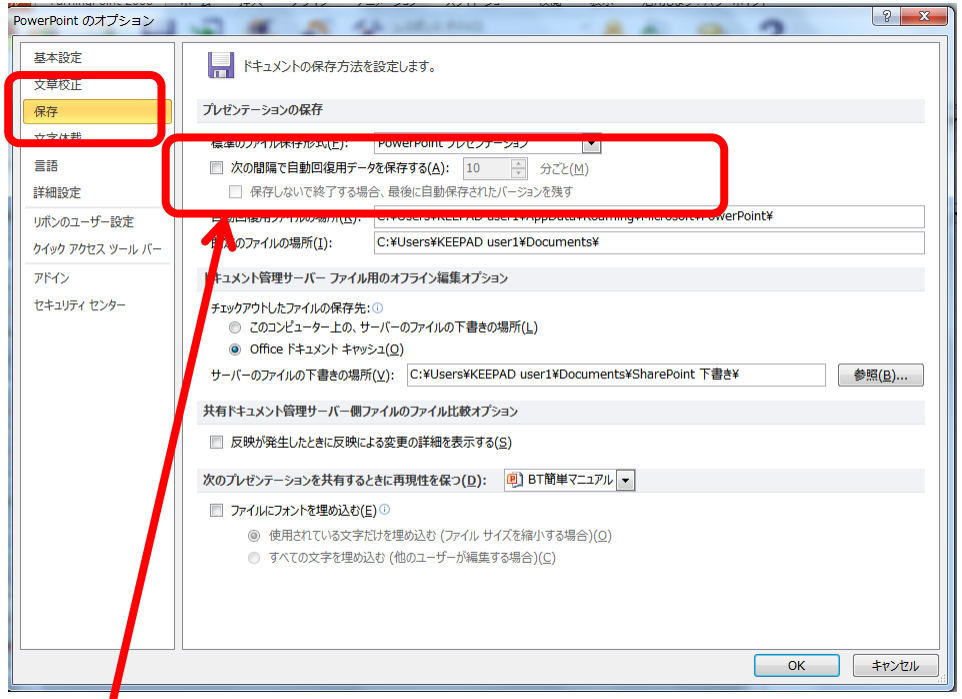
※TurningPointで集計を安全に行うために
①RFレシーバを差し込む
②TurningPointファイルを開く
③TurningPoint画面からの確認事項
④スライドショーについて

KEEPAD JAPAN

※TurningPointで集計を安全に行うために

PowerPoint 自体のオプション設定を変更することで、集計中の画面が固まったり、進行できない状態になるなどのトラブルを回避することが出来ます。
※PowerPointはデフォルト設定では、10分間に1度、自動でバックアップを取るようになっています。ただし、最近のPCでは、急に、PCがダウンすることも少なくなりましたので、この設定はあまり必要なくなりました。





「保存」の「次の間隔で・・・」のチェックをはずし、OKボタンを押して閉じてください。

KEEPAD JAPAN

①RFレシーバーを差し込む

RFレシーバーをプレゼンテーションを行うコンピューターのUSBに接続します。

Windowsがレシーバーを自動検出し、レシーバ内の必要なドライバをインストールします。

RFレシーバ

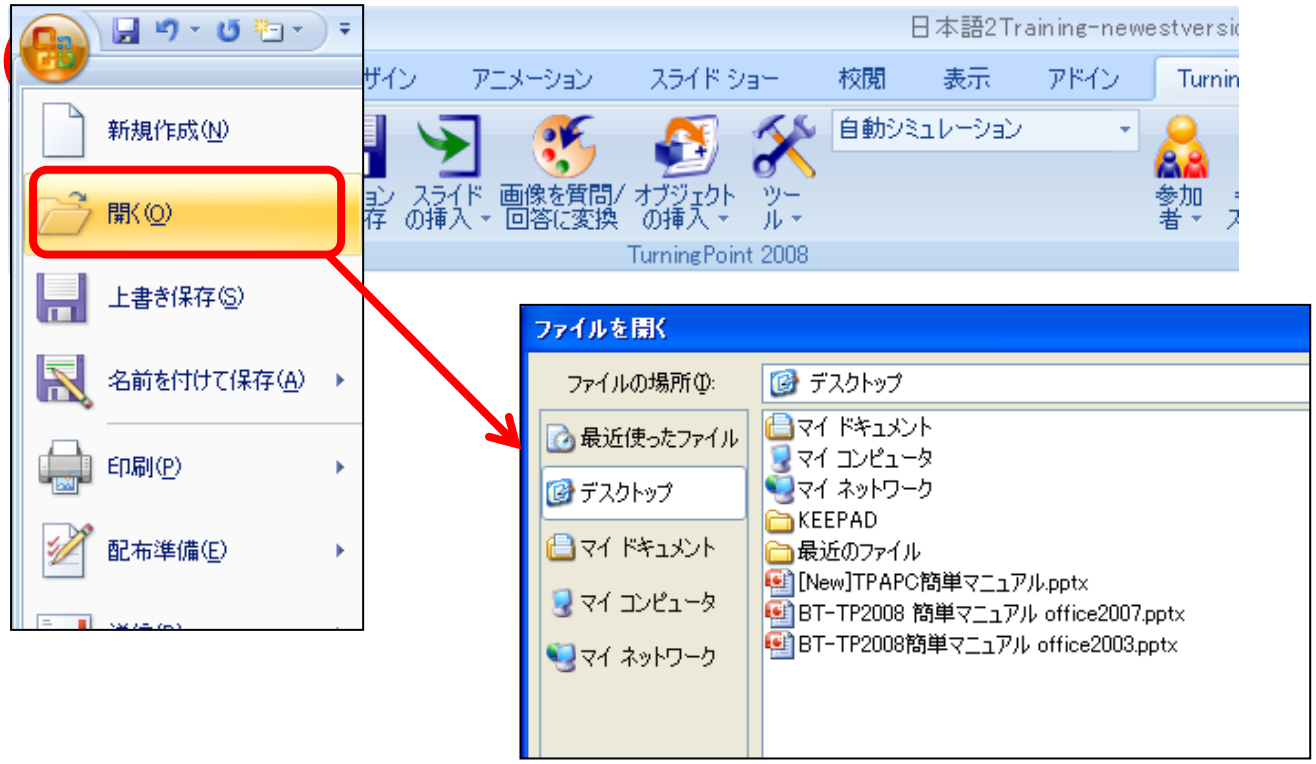
・レシーバの有効な距離は約60メートルです。
・受信できるResponseCardからの最大レスポンス数は、各レシーバの所有するライセンス数によって変わります。（最大1000台まで）

レシーバを抜く際、“安全な取り外し”作業は行う必要ありません。

②－A TurningPointファイルを開く

TurningPoint 2008

デスクトップ上のTurningPointのアイコンをダブルクリックしソフトを立ち上げた後、メニューの「開く」でTurningPointファイルを開きます。

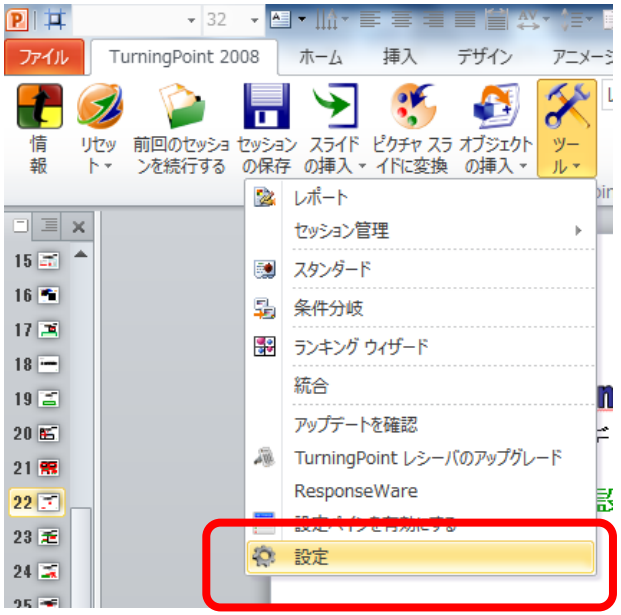


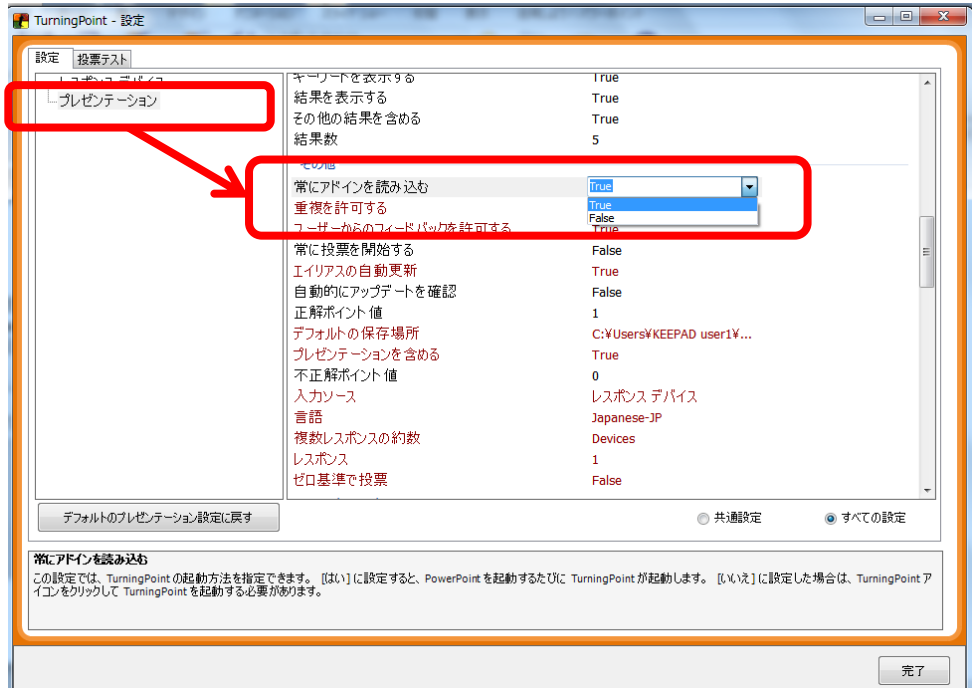
注）使用するファイルは、TurningPointより開いてください！

KEEPAD JAPAN

②—B　TurningPointファイルを開く作業を簡略化する方法

設定を変えることで、TurningPointのスライドを含むファイルをダブルクリックしても、PowerPointを普通に立ち上げたとしても、TurningPointが常時アドインとして読み込まれ動作するようになります。

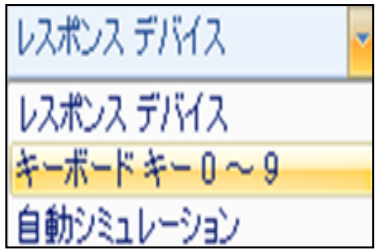




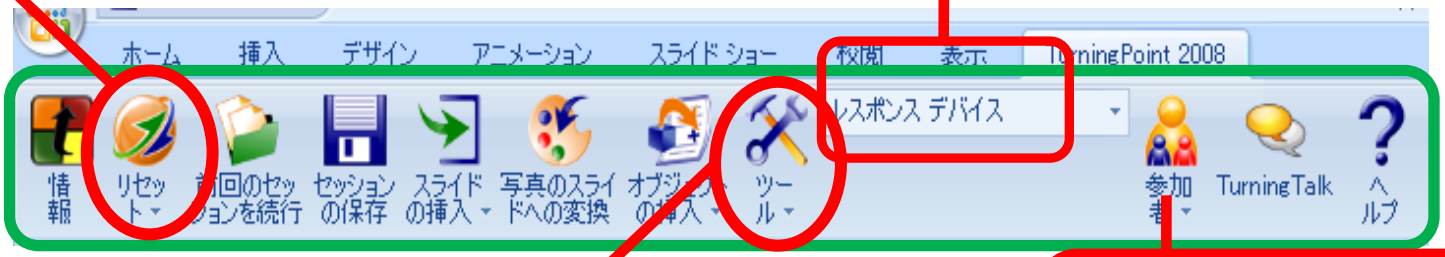
この設定を行った方が、より確実で円滑に集計を行う事が出来ます。

③TurningPoint画面からの確認事項

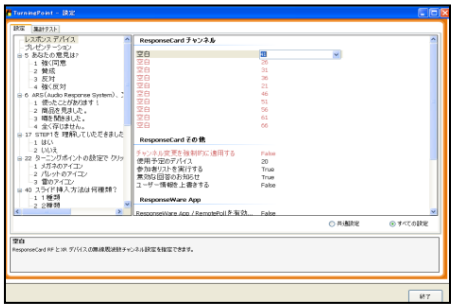
リセット
TurningPointグラフの値を“0”にします。



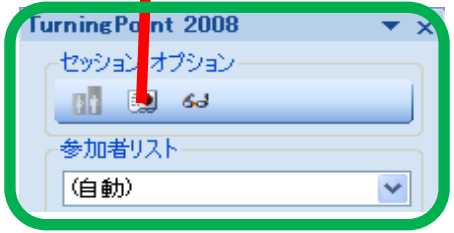
レスポンスデバイスを選択
投票方法選択。通常は“レスポンスデバイス”



チャネル番号と使用デバイス数の確認
ツール→設定（ﾚｽﾎﾟﾝｽﾃﾞﾊﾞｲｽ）より
設定します。（参照）



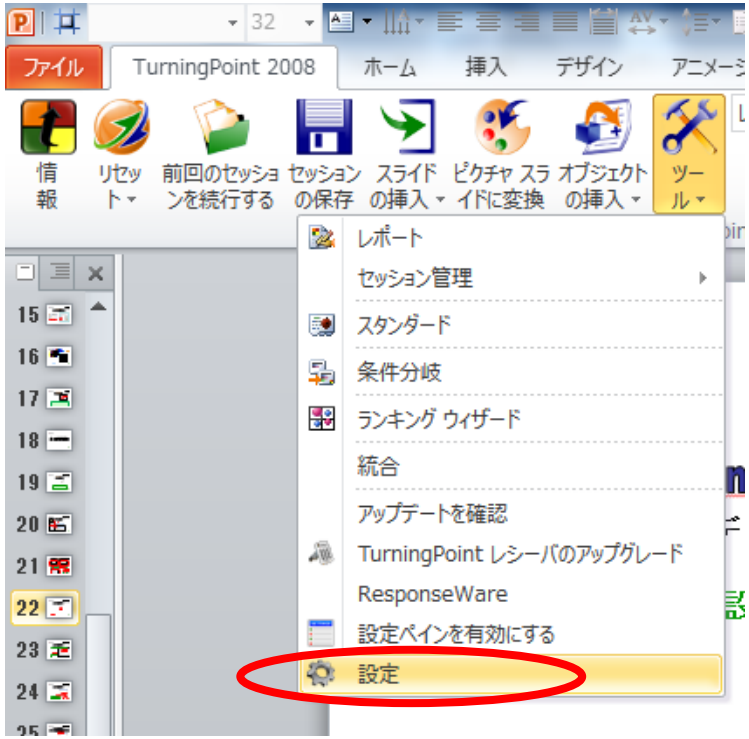
参加者リスト
個人特定なしの時は“匿名”
個人特定をする時は作成したリスト名（**“ステップ　B”参照**）を選択。



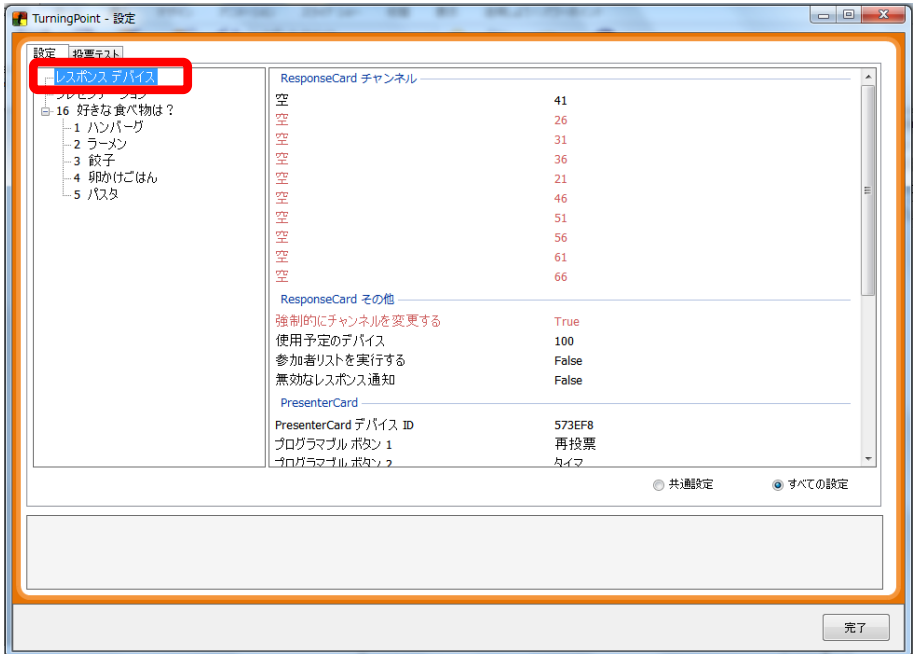
③TurningPoint画面からの確認事項

チャネル番号と使用デバイス数（ResponseCardチャネル番号設定＆集計テスト）

リボン内“ツール”より“設定”をクリックします。



“設定”タグをクリックし、“レスポンスデバイス”を選びます。



KEEPAD JAPAN

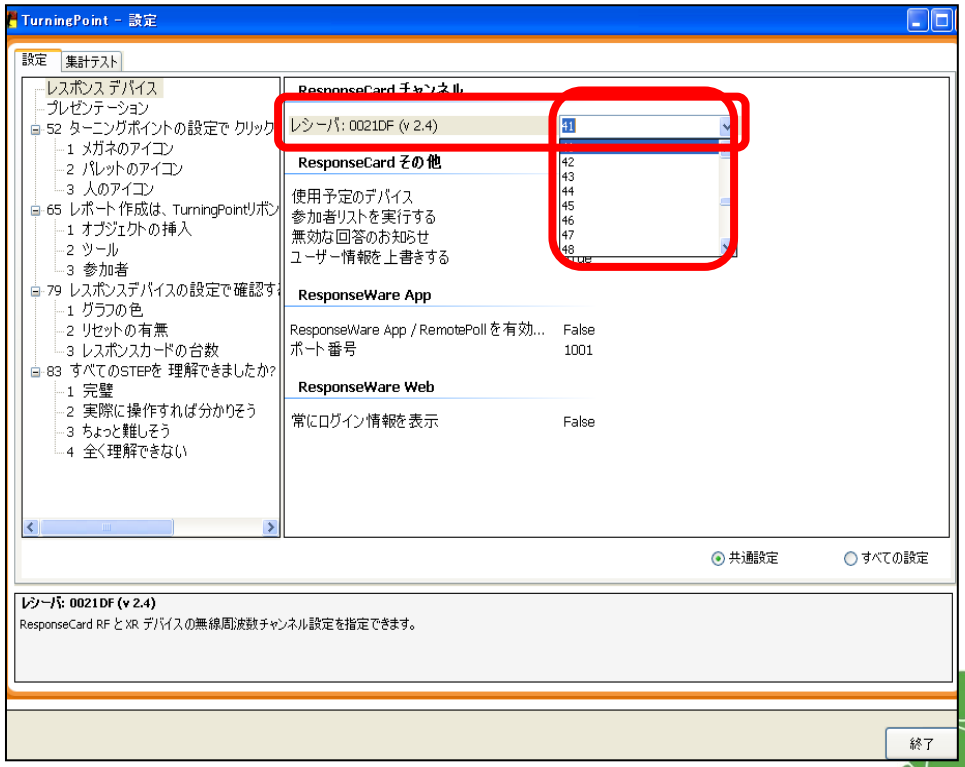
③TurningPoint画面からの確認事項

チャネル番号と使用デバイス数（ResponseCardチャネル番号設定＆集計テスト）

1．ResponseCardチャネルを設定します。

60m以内で複数個所にてTurningPoint使用の際に、無線による電波干渉を避けるものです。

“**ResponseCardチャネル**”より、一番上のチャネル記入欄を選びます。
右コラムよりチャネル番号を選択してください。
Enterキーを押してください。



注）“レシーバ：〇〇〇〇〇〇（v●.●）”の表示を必ずご確認ください。

82チャネルあり、
デフォルトは41チャネルです。
（レシーバのチャネル変更の際には、ResponseCardのチャネルも変更する必要があります。）

③TurningPoint画面からの確認事項

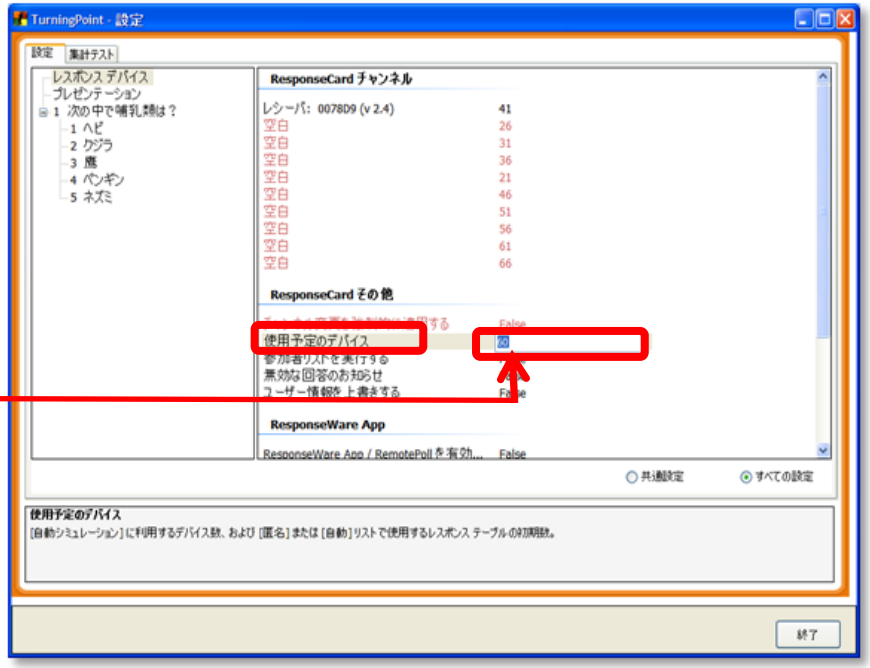
チャネル番号と使用デバイス数（ResponseCardチャネル番号設定＆集計テスト）

2. 使用ResponseCard数を設定します。

“ResponseCardその他”より、
“使用予定のデバイス”を選択すると、右のテキストボックスが開きます。

ボックスに、使用予定のデバイス台数を入力します。

Enterキーを押してください。



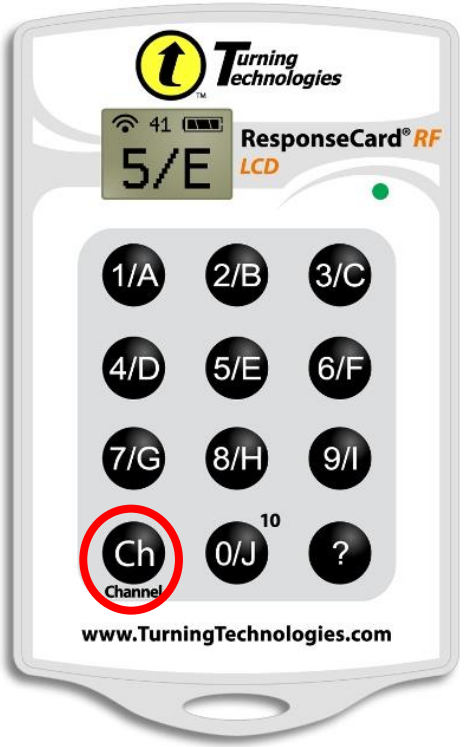
KEEPAD JAPAN

③TurningPoint画面からの確認事項

チャネル番号と使用デバイス数（ResponseCardチャネル番号設定＆集計テスト）

ResponseCardのチャネル設定です。

- キーパッドの**Ch**ボタンを押します。
- 緑と赤色に点滅する間、**2桁のチャンネル番号**を素早く入力。
- ライトが黄色に変わり、素早く**Ch**を押します。
- 緑色に2,3秒光ります。



注意: *Ch→2桁のチャンネル番号→Ch*

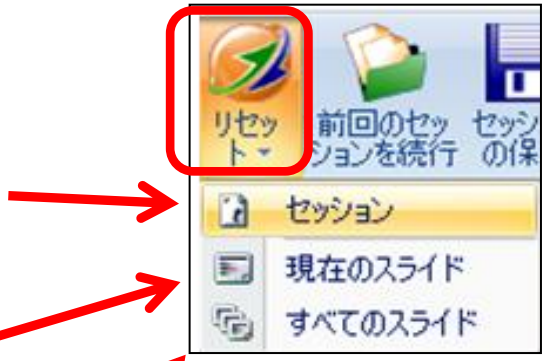
キーパッドが正しく動作していない場合、まず設定されたチャンネル番号に問題がないか確認してください。

③TurningPoint画面からの確認事項

TurningPointグラフのリセット

TurningPointスライド上のグラフの値をリセット“0”にします。

リボン内の、**“リセット”**をクリックします。



セッション
すべてのセッションデータをリセットします。

現在のスライド
指定したスライドのグラフをリセットします。データはリセットされません。

すべてのスライド
プレゼンテーション内全てのグラフをリセットします。
セッションデータはリセットされません。

③TurningPoint画面からの確認事項

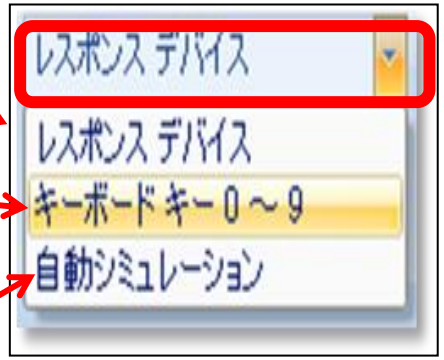
使用デバイスの選択

リボン内ドロップダウンメニューより、使用デバイスのメニューを選択し、表示します。

レスポンスデバイス ： レシーバーとResponseCardを使用して投票します。

キーボードキー0～9 ： キーボードの1～0キーで投票する。動作確認用、テスト用です。

自動シュミレーション ： プレゼンテーション中、コンピューターが自動でシュミレーション投票します。



プレゼンテーションの際は、**“レスポンスデバイス”**を選択します。

KEEPAD JAPAN

③TurningPoint画面からの確認事項

参加者リストの選択

画面右パネル「TurningPoint2008」より参加者を選びます。

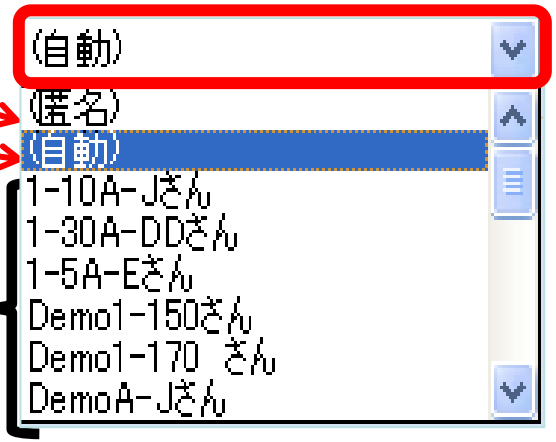
1. 参加者リストのドロップダウンメニューを開きます。

2. 参加者リストを選びます。

匿名 ： 個人を特定しません。

自動 ： カード裏にある“デバイスID”別にデータを収集します。

作成した参加者リスト： 個人特定可能。参加者リストに登録されたResponseCardの集計が可能です。

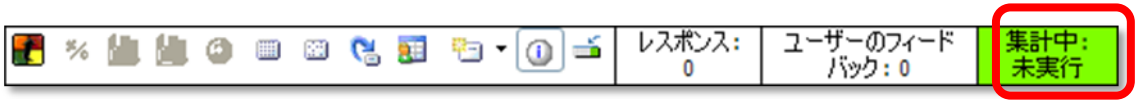


【注意】右パネルが表示されないときは、
TPリボン内より
“ツール”＞“設定ペインを有効にする”

④スライドショー　開始と表示バー

“スライドショー”にセットします。
TurningPointスライドをスライドショーにすると、自動的に集計画面となります。

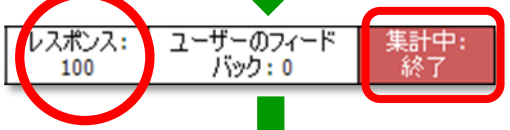
TurningPointスライドには、以下の表示バーが表示されます。
表示バーは、レスポンス集計の実行と終了、集計状況が確認できます。



集計開始/集計中

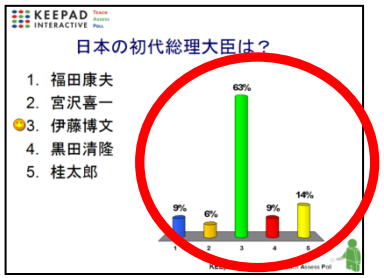
集計数

１クリックで集計終了です。



集計終了

１クリックで集計グラフが表示されます。



（注）上記のメニューバーは、キーボードのF9キーで表示非表示の切り替えが出来ます。

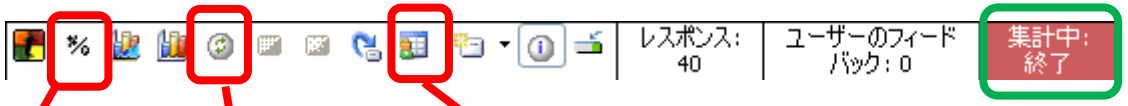
（注）スライドの進行操作は、キーボードの↓キーまたは PresenterCardで行います。

④スライドショー　表示バーの活用

表示バーが消えます。（再度表示する際は“F9”をクリック）

参加者リストを使用の際に、個人のセルが表示されます。投票すると「セルの色が変わるタイプ」と「セルが消えるタイプ」の2種類あります。

集計開始/集計中



集計終了

グラフ表示を、実数と%で変更できます。

スライドをリセットして再投票できます。

全体の質問回答率や個人の回答時間、回答等を確認できます。

KEEPAD JAPAN

スライドの作成

①TurningPointスライドの作成・挿入
②オブジェクトの挿入（さらにアクティブなスライドへ）
③ファイルの保存（TPPファイル、セッションファイル）
※TurningPointファイルを開くときの注意

TurningPointアイコンをクリックして、TurningPointを起動させます。

TurningPointの操作(スライド作成など)は“TurningPointリボン”より行います。

PowerPointファイルまたは**TurningPointファイル**を
メニューバー**“ファイル”**の**“開く”**より選択

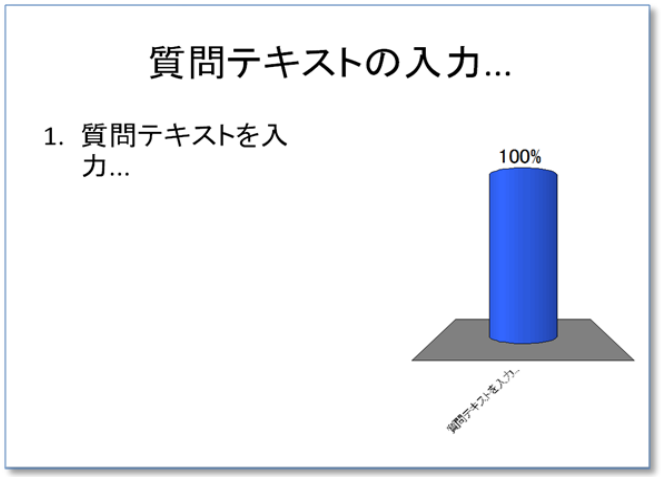
TurningPointリボン

KEEPAD JAPAN

①TurningPointスライドの挿入

1. TurningPointリボン内“スライドの挿入”から “縦棒スライド”をクリックします。

2. 右の様な画面になります。

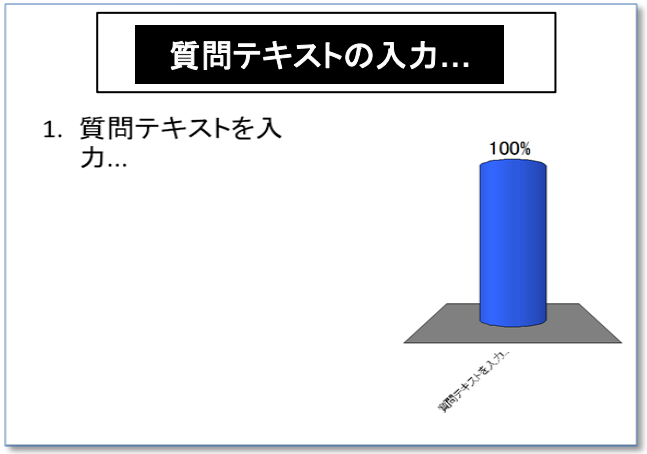


KEEPAD JAPAN

①TurningPointスライドの挿入

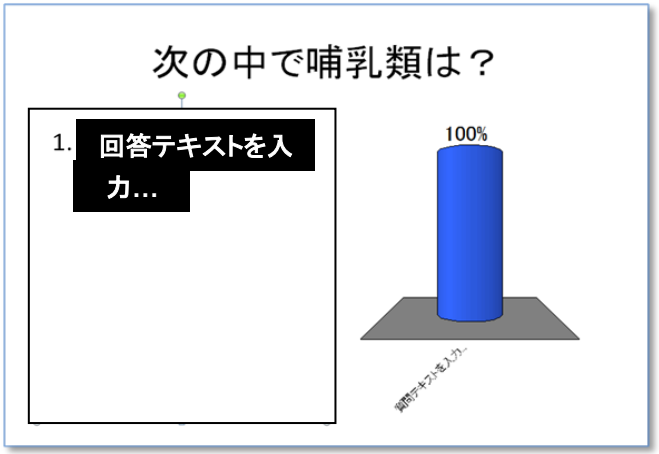
3 . “質問テキスト…”

テキストボックスをクリックし、質問を直接入力します。



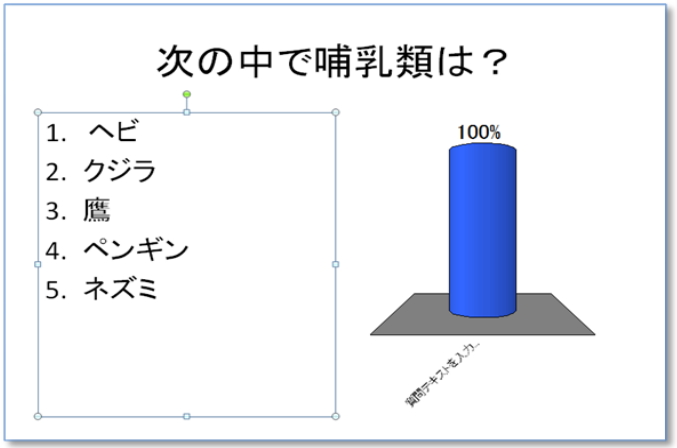
4. “回答テキストを入力…”

テキストボックスをクリックし、選択肢を直接入力します。

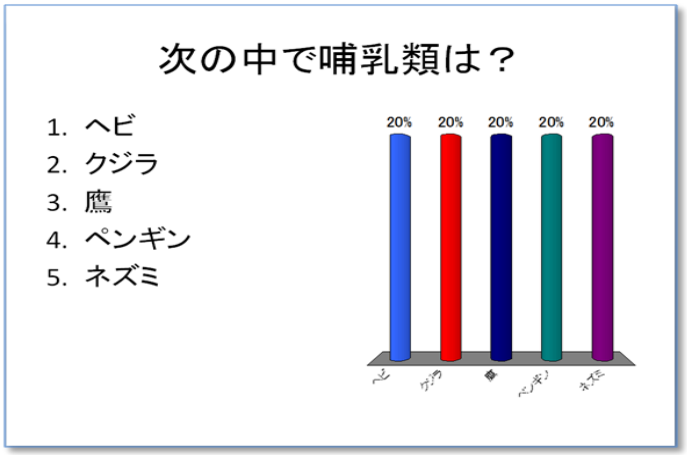


①TurningPointスライドの挿入

5．　右のような画面になります



6.　カーソルをテキストボックスの外側でクリックすると、回答項目の数だけグラフが表示されます。



②オブジェクトの挿入（カウントダウンの挿入）

カウントダウンを使用すると、投票可能時間が表示され、時間制限を設けることができます。

1. リボン内“**オブジェクトの挿入**”より
“**カウントダウン**”を選択します。

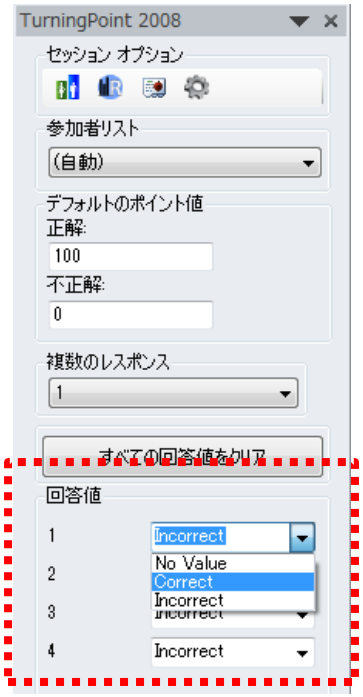
2. 下記のように表示されます。

カウントダウンのアイコンをクリックすると秒数を変更することが出来ます。

KEEPAD JAPAN

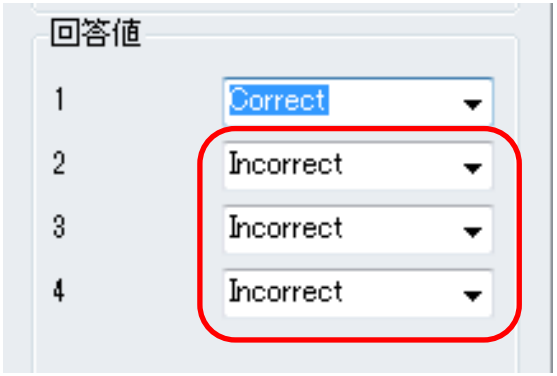
②オブジェクトの挿入（正解・不正解のある場合）

1. 画面右パネル**設定ペイン**内の“**回答値**”を確認します。



2. 正解とする回答の、メニューより、“Correct”を選択します（複数回答可）。

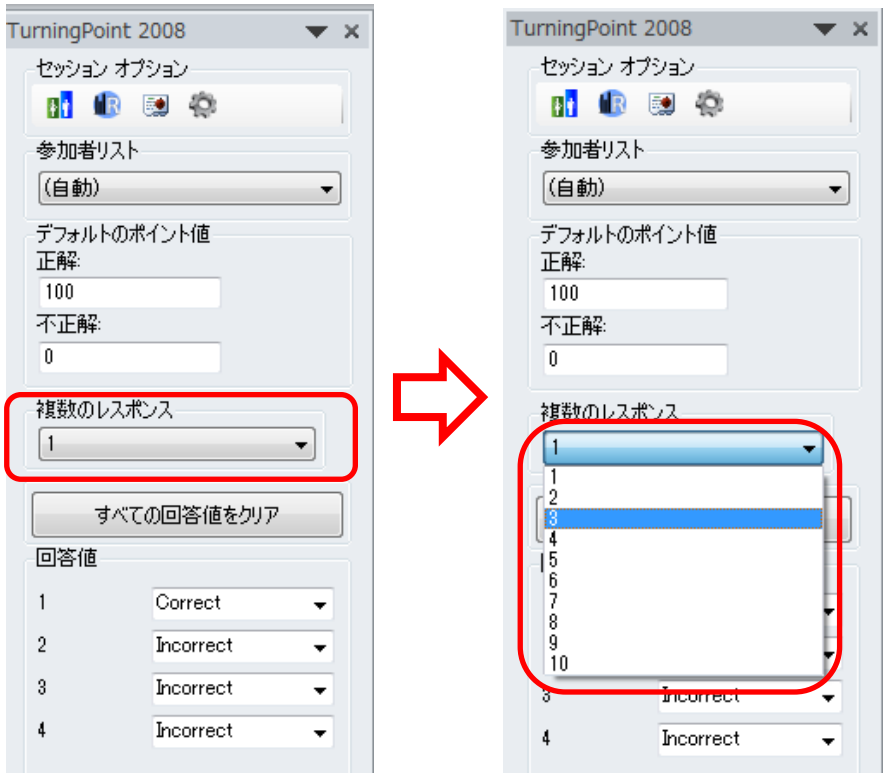
3. その他は“Incorrect”となります。



②オブジェクトの挿入（複数回答をさせる場合）

1. 画面右パネル**設定ペイン**内の**“複数のレスポンス”**を確認します。

2. **プルダウンメニューより回答を許可する数字を選択します。**

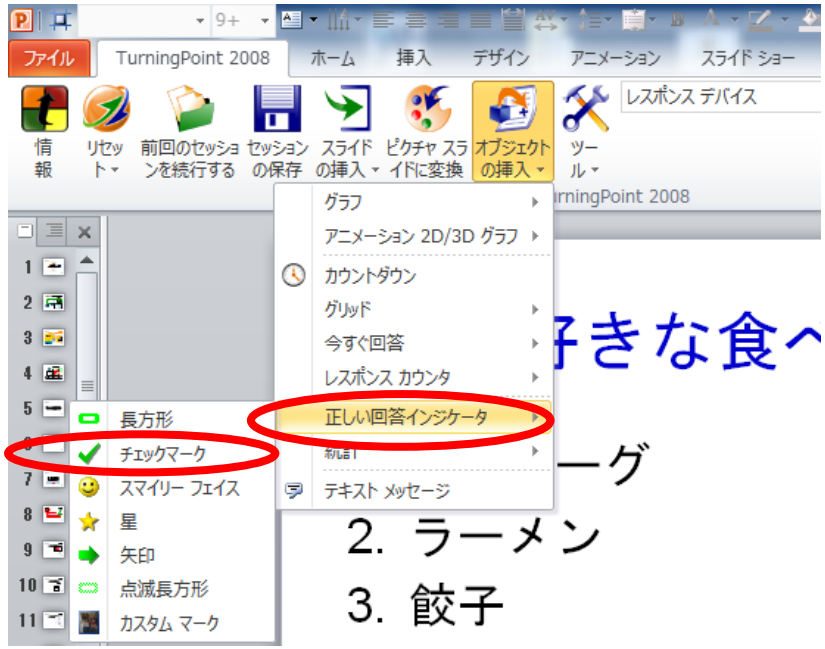


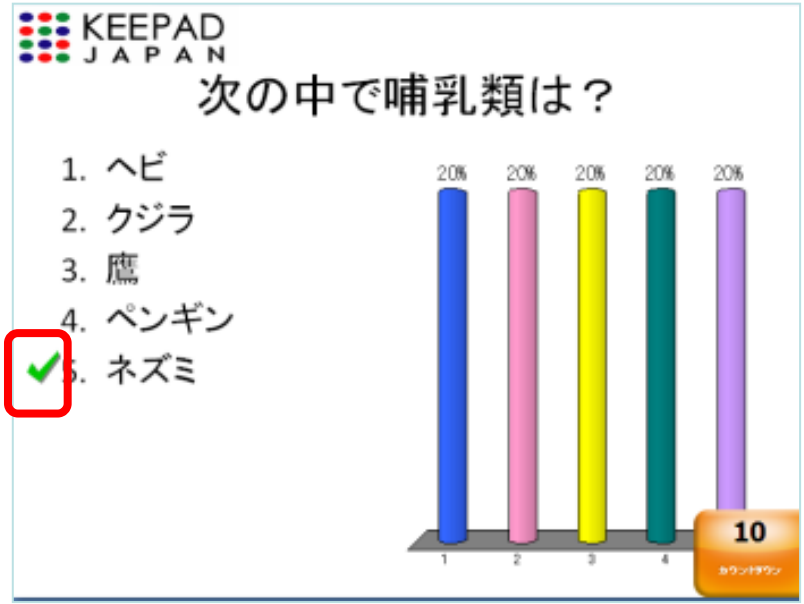
②オブジェクトの挿入（正解マークの挿入）

※画面右パネル設定ペイン内の“回答値”で正解不正解の設定が必要

1. リボン内**“オブジェクトの挿入”**より、7種類の中から、**“正解マーク”**を選択します。

2.選択した正解マークが正解である解答の横に配置されます。



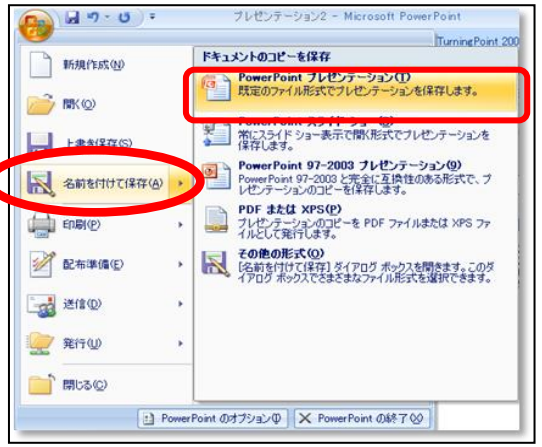


KEEPAD JAPAN

③ファイルの保存（ TurningPointファイル ）

TurningPointスライドは、通常のPowerPointのファイルとして保存されます。

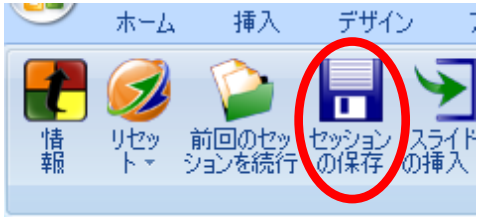
1. **Officeボタン**より、**“名前を付けて保存”**を選択します。
2. **“PowerPointプレゼンテーション”**を選択します。



③ファイルの保存（セッションファイル）

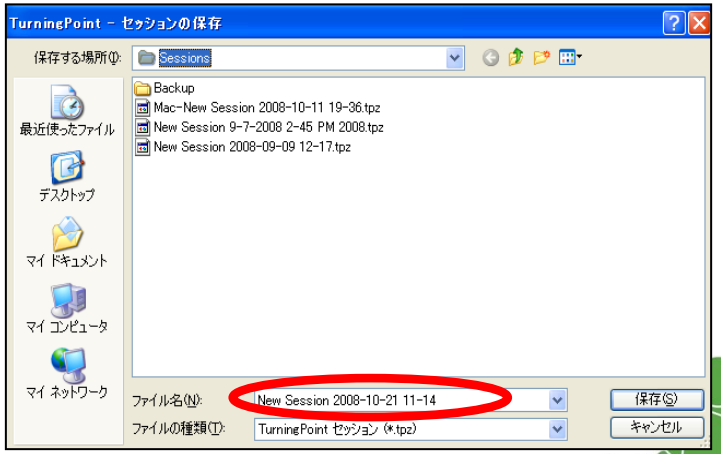
集計データ保存

セッションデータを保存します。
※保存したセッションデータより、Excelのレポート作成が可能です。



1. リボンの、“**セッションの保存**”を開きます。
2. セッション結果を保存するファイル名を記入します。
   （デフォルトでは、（日付と時間が入ります。）
3. “**保存**”をクリックします。

（注）保存場所は、デフォルトで“My Documents”内“TurningPointファイル” の“Session”となります。



KEEPAD JAPAN

※TurningPointファイルを開くときの注意

① TurningPointファイルを開くときは、TurningPointより開いてください。

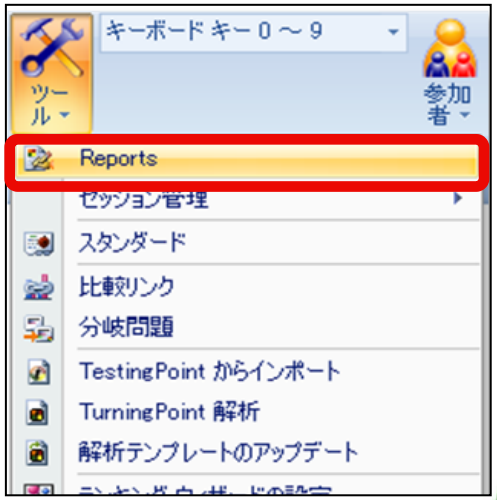
② TurningPointのインストールされていないパソコンでは、
TurningPointの機能は使えません。
TurningPointスライドは編集しないでください。

③ TurningPointをインストールしていないパソコンで
TurningPointファイルを開くとそのファイルのTurningPointスライドは
正常に作動しないことがあります。

④ 作成時とは別バージョンのofficeがインストールされたPCで開くと
正常に作動しないことあります。

KEEPAD JAPAN

レポートの作成

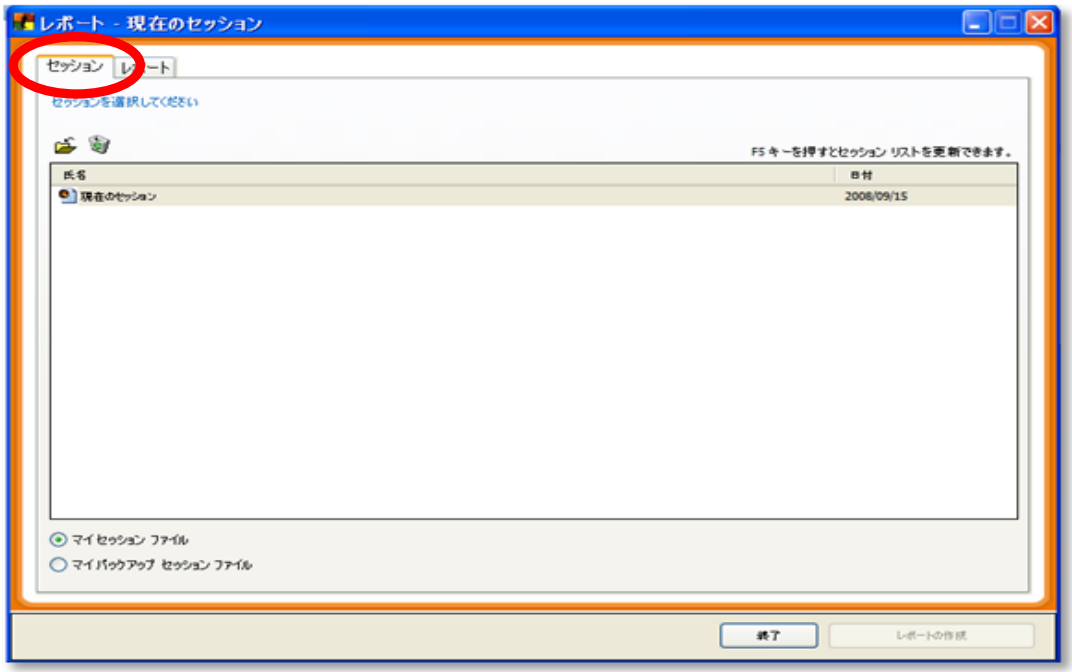


KEEPAD JAPAN

質問別、個人別、グループ別、デモグラフィック等、最大約30種類のレポートが作成可能

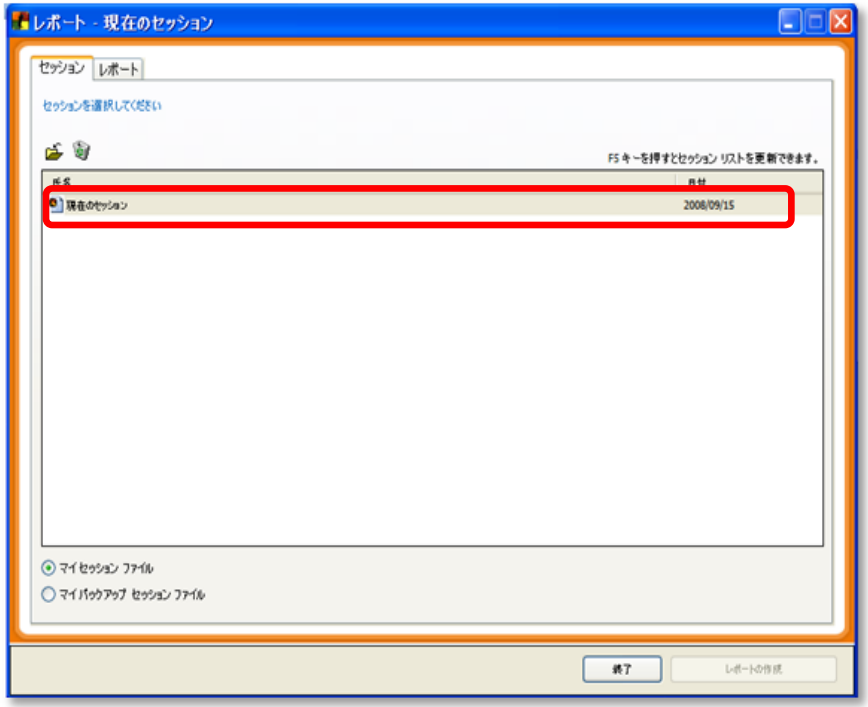
1. リボン内“ツール”より、“レポート”を選びます。

2. レポート画面が現れるので、“セッション”タブを選んでください。



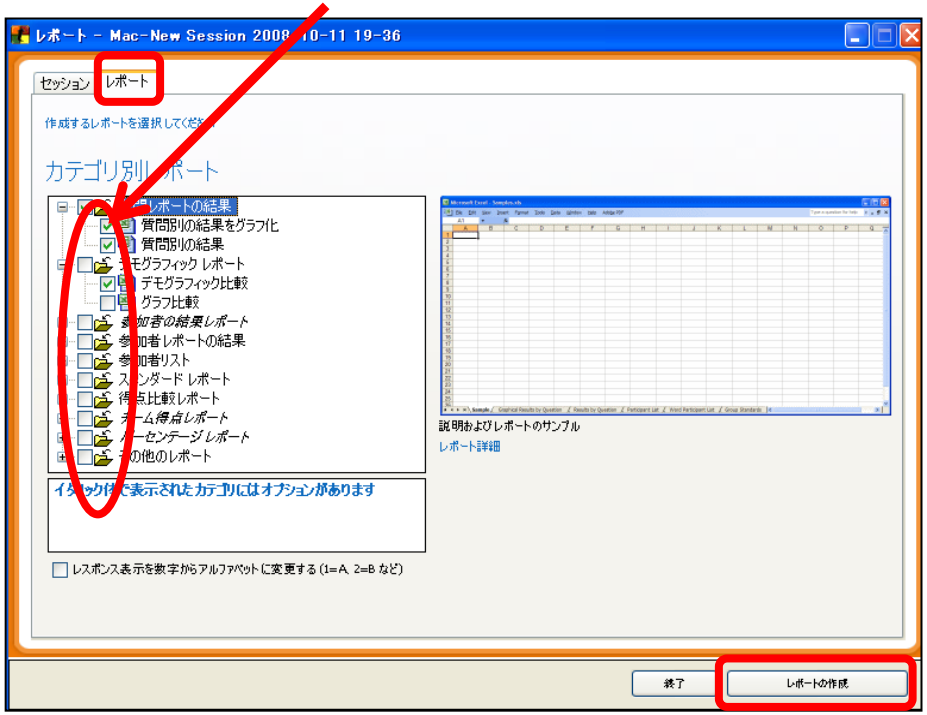
KEEPAD JAPAN

4. プレゼンテーション直後にレポート作成した場合は、“現在のセッション”を選択します。



5. “レポート”タグをクリックします。

6. 作成するレポートの種類を選択します。



7. “レポートの作成”をクリックします。

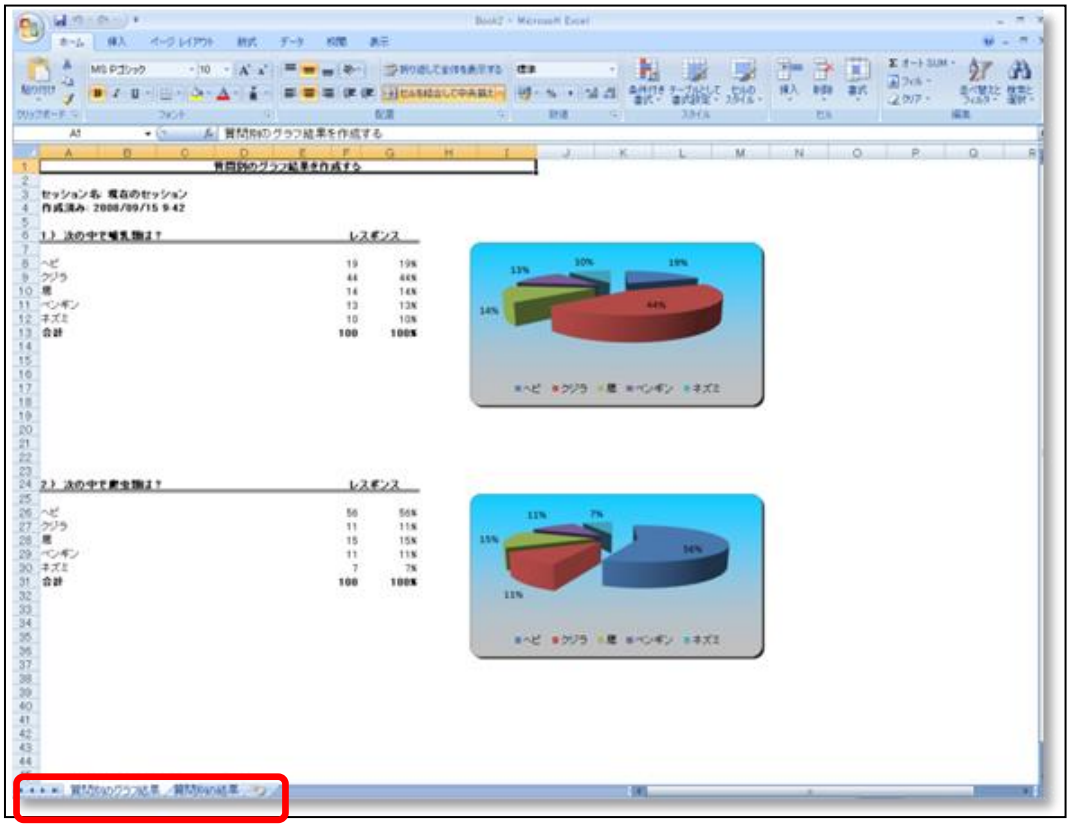
注）レポート種類の選択数とセッションデータの大きさにより、作成時間が大幅に変わります。

KEEPAD JAPAN

8. レポートがExcel で表示されます

9. レポートの保存は、通常のExcel/Wordの保存で行ってください。

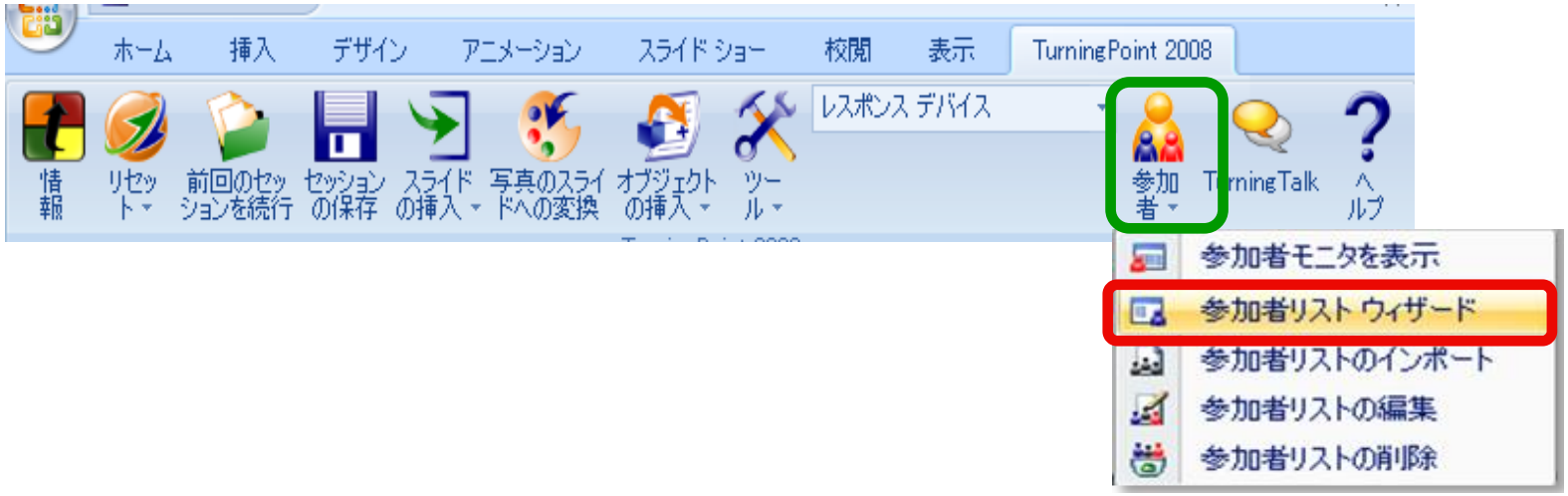
10. レポート作成画面 **“終了”**をクリックすると、レポート作成終了です。



選択数だけレポートが作成されますので、タグをクリックしてください。

KEEPAD JAPAN

参加者リストの作成



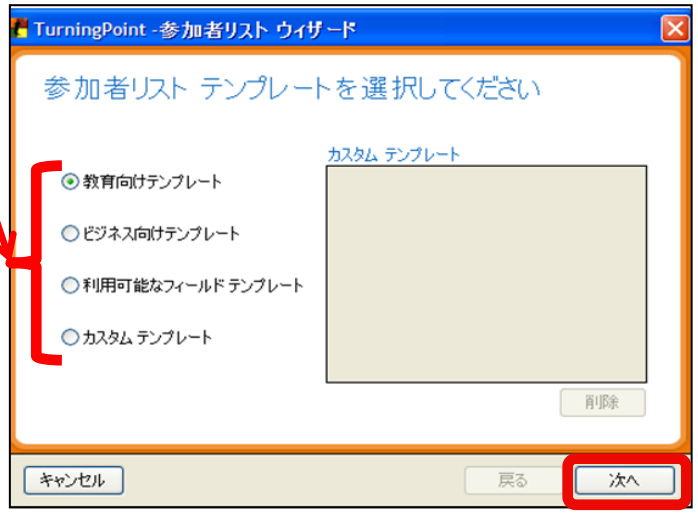
KEEPAD JAPAN

参加者リストを作成すると、個人特定をすることが可能です。

1. リボンの“参加者”より、“参加者リストウィザード”を選択する。

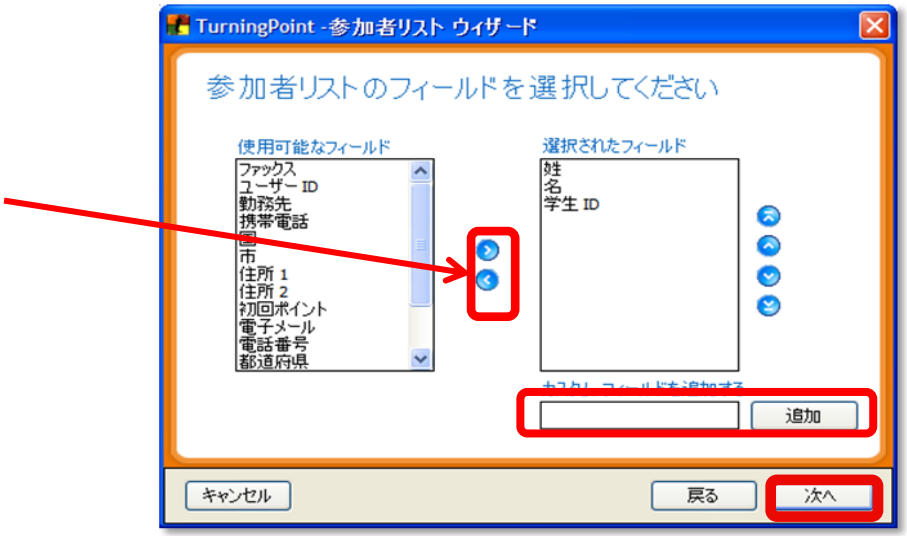
2. 参加者一覧ウィザード画面　が現れます。
使用するテンプレートを選んで、“次へ”をクリックしてください。

（カスタムテンプレートには、自分で作成したテンプレートが表示されます。）



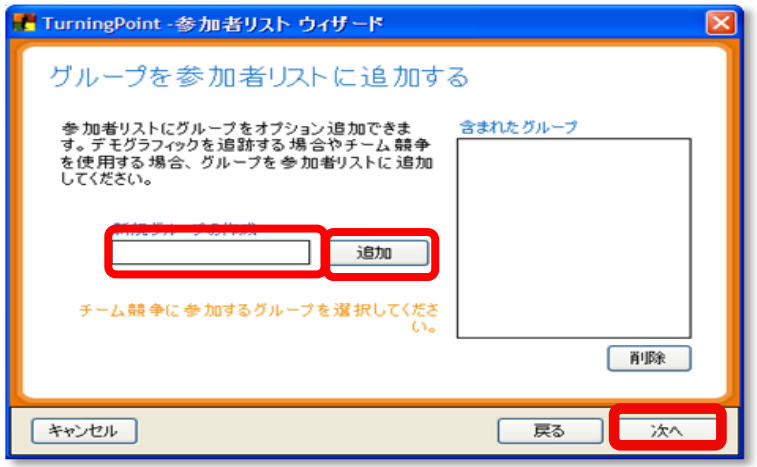
KEEPAD JAPAN

3. 必要な参加者の情報フィールドを「使用可能なフィールド」より選び、“**編集ボタン**”で「選択されたフィールド」へ追加して下さい。
（不必要なものは、逆の作業をお願いします。）
又、“**カスタムフィールド**”より“**追加**”することも可能です。



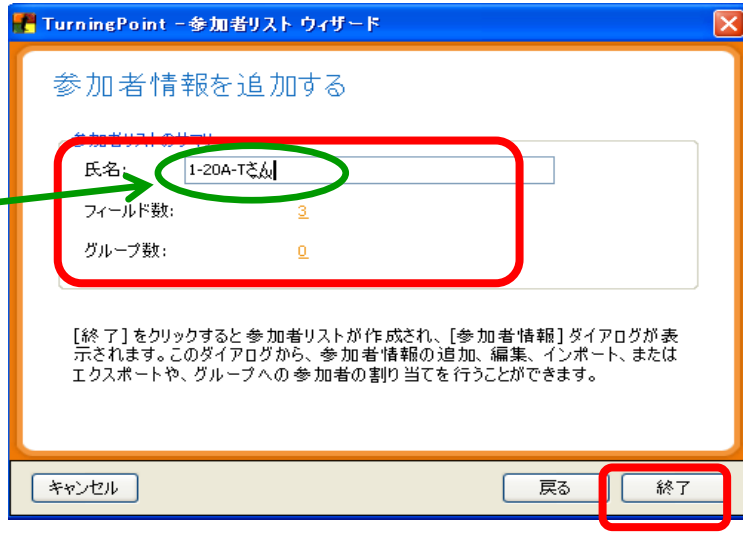
4.“**次へ**”をクリックしてください。

5. グループを作る場合、“**新規グループの作成**”にグループ名を記入し、“**追加**”をクリックします。



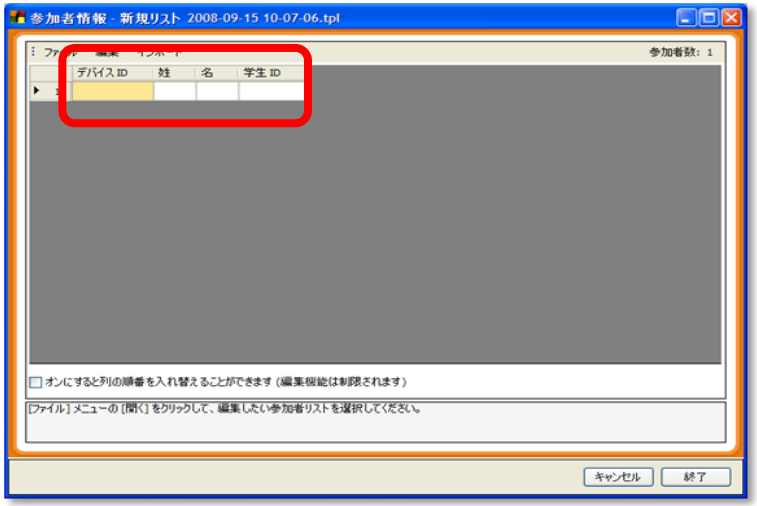
6.“**次へ**”をクリックしてください。

7. 選択した条件を確認します。
変更したい項目の状態・値をクリックして、変更して下さい。
“氏名”には**リスト名**を記入して下さい。
※海外製のソフトのため、氏名が逆で表示されてしまうので、氏もしくは名の列に、氏名を入れ、もう一方の列は空白にしておく。



8. **“終了”**をクリックしてください。

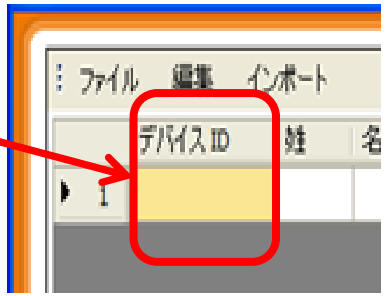
9. **“参加者情報”**に参加者情報を入力します。



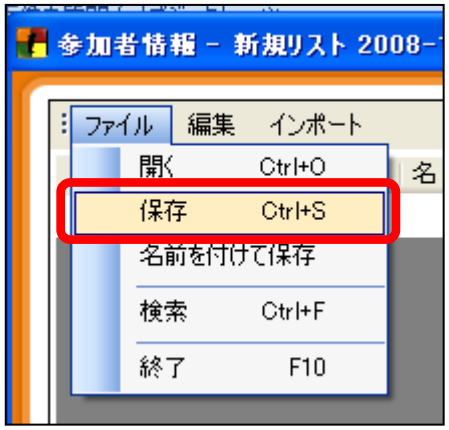
入力方法は3種類です。
①セルをクリックして直接入力します。
②エクセルデータをコピー＆ペーストします。
③Excelワークシートより、データをインポートします。

10. デバイスIDはResponseCard裏バーコードの下に表示されたシリアルナンバーです。
デバイスIDは必ず入力してください。

注意：Excelデバイス IDリストをご希望の方は、弊社の営業担当者までご連絡ください。



11. **参加者情報を保存をします。**
参加者情報ウインドウの“**ファイル**”より“**保存**”を選んで下さい。
（デフォルトの保存先は、My Document のTurningPointファイル内です。ファイル名は、**STEP ii - 7**のリスト名です。）



12. “**終了**”をクリックします。

＊＊参加者リストは、TurningPointからのみ開くことが可能です。

12.　画面右パネル「TurningPoint2008」内参加者リストのドロップダウンメニューを確認します。

メニュー内に、作成したリストがあることを確認してください。

【注意】右パネルが表示されないときは、
TPリボン内より
“ツール”＞“設定ペインを有効にする”

KEEPAD JAPAN

TurningPoint　有効活用の例

- 質問は固めず、ばらつかせる
- 10分から20分に1問程度
- 質問・選択肢は短くシンプルに
- プレゼンテーション前に前回の復習や課題の確認をする
- 意図的に曖昧な選択肢を入れる
- ディスカッションをはさんで同じ設問をする
- 遊び感覚で、習慣的に使い続ける

TurningPointの活用事例や最新アップデートは弊社サイトへ！

http://www.keepad.com/

長時間誠にお疲れ様でした